

1.1.2 財産と借金札取りゲーム

このゲームはもう定番と言っているのでは…とありますが…どうでしょうか。4人グループで親を決めて1(エース)~5とジョーカー1枚の計21枚のカードで、やりとりしていくゲームです。4人グループと書きましたが、5人グループでも可能です。カードの数は1枚減りますが、人数あわせで5人でもできることを知っておいてください。このゲーム関連だけで一冊の本ができる位に研究されている方も多いのではと思います。

カードの意味づけをして、ゲームの説明、そして実際にやってみるという形になります。+1を1万円の財産、-1を1万円の借金とし、ジョーカーは財産でも借金でもない0ということを決めます。自分はA3型厚紙にトランプをでっかくしたものを用意して、生徒に説明しています。

慣れてくると最初と最後だけカードを見ていい、「財産と借金伏せ札ゲーム」というのもあります。教科書にも取り上げられているので、そちらも参考にするといいでしょう。授業の中で、ゲームと計算練習の区分をきちんとすると生徒の集中力も増していくと思います。1周回って、自分がトップだと思ったらストップをかけられる。もし、トップでなかったら最下位の人とカードを交換とか、ストップのルールは工夫するのもいいと思います。マイナスのカードばかりだと元気なくしますからビリストップとかというルールを作り、ビリだったらその時のトップとカードを交換なんていうのもいいと思います。



自分が書いた黒板の字が写った写真がありますね、恥ずかしいですが、自分は字が上手ではありません。しかしいつでも板書計画を考え、なるべく大きくはっきりとした字を書くように心がけています。